



No. 80

鹿私幼 だより

会報

（一社）鹿児島県私立幼稚園協会

発行人／上原 樹縁 編集／調査広報委員会
〒890-0064 鹿児島市鴨池新町5番6号

（プロパンガス会館5階502号室）

TEL099-285-6688 FAX099-285-6689

ホーム・ページ <http://muzoca.net>

E-Mail jimukyoku@muzoca.net

『新しい生活習慣のなかで 「ザッソウ(雑談+相談)」のすすめ』

（一社）鹿児島県私立幼稚園協会

会長 上原 樹縁



この一年を振り返ると、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に追われ、園や家庭などで新しい生活様式が常に求められた一年でした。この様ななか、各園におかれましては、三密を避けるため、園生活や教育・保育活動、行事等の自粛や中止、見直しが余儀なくされたことでしょうか。当協会も令和2年度事業のうち上半期事業を中止・延期をし、下半期事業においては、安全に配慮しながら、時間や規模を縮小して研修会を開催いたしました。その間の加盟園の皆様のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

さて、従来から叫ばれている「働き方」の見直しに対する風潮は、とかく働く時間を短くしようとするものです。働く時間を減らしつつも、どれだけ生産性を向上させるか、それが喫緊の課題です。長時間労働の削減や生産性の向上に取り組むことは非常に意義のあることです。無駄な会議や作業を削減したり、業務の流れを見直したりと、私たちの職場でも取り組んでいます。しかし、効率化を追求しすぎたことで、様々な問題が起こる場合もあります。例えば今回の新型コロナウイルス感染症禍で、園と家庭、また職員同士が情報や思いを共有する時間が限りなく縮小されてきています。集う場や機会が縮小したことで、コミュニケーションの量も質も落ちていることもあるでしょう。コミュニケーション不足によって、教育・保育現場や職場（園業務）から具体的な提案や配慮の行き届いた保育など大切なものが失われてしまうことがあります。だからこそ、今このような状況下で創意工夫や手間を加えながら、本来の在るべき姿や目的への挑戦を、みんなで力を合わせて取り組む必要があると思うのです。ひとつ私の提案なのですが、まずは手始めに、『ザッソウ

（雑談+相談）』を活用してみたいかがでしょう。感染症予防対策の徹底をしたうえではありますが、気軽に雑談と相談ができるチームであることが重要です。雑談できる関係性があるからこそ、いつでも相談ができるようになるわけです。例えば、結論が出てからの相談は、実際のところ相談ではなく報告だったりして対話にならないことがあります。それでは相談される側も身構えてしまいます。それが最初からザッソウだとわかっているならば、相談する側もされる側も安心して気軽に話をすることができます。ザッソウを取り入れることで園というチームが「お互いに助け合える信頼関係が構築される。共通の価値観やカルチャーが醸成される。」と変化していきます。「たかが雑談や相談に、そんな効果があるわけない…」と思われるかもしれませんが、しかし、ザッソウというコンセプトがチームに浸透して習慣化すれば、確実に人間関係は変わります。そして、メンバー同士が気兼ねなくなんでも言い合えるようになれば、チームは結果を出すことができる——そう私は信じています。是非とも、『コロナ禍での新しい生活様式』に「ザッソウ」の文化を広げて、子どもや教職員が楽しく通うことができ働きやすい園創りに取り組んでいきましょう！

最後に、冒頭でも申し上げましたが、今年度も当協会の事業活動に対し、多大なご理解ご協力を賜りました。協会役員を代表致しまして、心より感謝申し上げます。令和3年度は「全日本私立幼稚園連合会九州地区会教師研修大会」を鹿児島大会として実施予定です。また、令和2年度実施予定だった当協会創立70周年記念事業等も引き続き企画して参ります。コロナ禍が収束に向かい、会員の皆様と直接お会いできる日を心待ちにしております。

コロナ禍における各種研修会の実施について（報告）

教育研究委員長 室屋 賢三

I 令和2年度の活動を振り返って

令和2年度の研修は、新型コロナウイルス感染症防止のために、第59回県私立幼稚園教職員研修大会鹿児島大会をはじめ、年度の前半の研修は中止または延期となった。そのような中でも、各地区、ブロックでは、オンラインによる研修会が実施されるなど研修を工夫し、基本方針である「教職員の資質向上」「教育・保育の充実」に向けて研究・実践を継続していただいた。また、幼稚園ナビへの登録園も増えて、研修等の申し込み・スタンプシールの発行が各園でできるようになり、研修の充実につながっている。

1 新規採用教職員研修会

新型コロナウイルス感染症の影響で4月3日実施予定であった第1回目を10月20日に、第2回目を12月25日に開催した。開催においては、ホテル側にもコロナ対策を十分お願いし、アクリル板の設置や密を避ける機の配置など配慮をしていただいた。受講者からは、「コロナ禍にもかかわらず研修会を開いてくださってありがとうございます。」という感想が多数あり、対面での開催ができて良かったと感じた。

2 主任等研修会

6月23日に開催予定の主任等研修会は、人数が多くなることが予想され、密の状態を解消できないと考え、やむなく中止とした。

3 第59回鹿児島県教職員研修大会鹿児島大会

7月27日～28日に宝山ホール（鹿児島県文化センター）で、開催予定であった教職員研修大会鹿児島大会は、新型コロナウイルス感染症の影響のためやむなく中止とした。問題提起園や会場園で指導講話の先生方にはすでに準備を進めていただいていたので発表の機会がなくなりたいへん残念であった。

併せて、鹿児島県私立幼稚園協会創立70周年記念式典及び祝賀会も予定されていたが、次年度に延期とした。

ただし、研究の継続という観点から、問題提起園の協力で各園の研究内容を研究誌としてまとめ、県内の各園に配付することができたことは成果であったと思う。

4 第21回乳幼児教育・保育実践講座

8月5～6日、免許状更新講習を兼ねた研修であったが、人数が多くなることが予想されたため、やむなく乳幼児教育・保育実践講座は中止とし、免許状更新講習は延期とした。

5 免許状更新講習（選択6時間）

8月5日に実施予定であった免許状更新講習を9月10日に「マリンパレスかごしま」で開催した。夏期休業中でなかったために、「教育課程の編成・実施」や「子どもの人権」等についての充実した研修内容であったにも

かわらず参加者は7名であった。

受講者減の背景等を分析し、時期、内容等を改善していく必要がある。

6 保育教諭等研修会

本年度は、コロナ禍ではあったが、換気や手指消毒など感染防止に努め、予定どおり実施した。コロナ禍にかかわらず106名の参加を得た。講師については新たな講師を選任して刷新を図り、どの講師も好評であった。特に菊地政隆先生のリズムダンスを通した講義は、好評であった。

7 第24回幼稚園等教育改善研究会

例年2日間にわたって開催していた研修会であったが、本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から1日間の開催とし、懇親会も中止とした。カリキュラムマネジメントについて、大分県のひまわり幼稚園園長川原恒太郎先生（研究機構教育研究副委員長）を招き「組織的かつ計画的な実施のためのリーダーとしてどのように対処するか」と題して実践を通した具体的な指導をしていただいた。

事例発表では、2園の先生方が自園の特色ある取組について事例発表をしてくださり、各園の参考になった。1日間の開催のために、園長先生方の参加も少なく、ややさびしい会となったが、内容としてはたいへん充実した研修会であった。

一昨年まで鹿児島市と各地区とで交互に会場を変えて開催してきたが、講師の旅程の問題、会員の参加のし易さ等を考慮して、当分の間、鹿児島市で開催することになっている。今後も鹿児島市での開催を継続していきたい。

8 各支部・ブロックごとの研修

各支部・ブロックの教育研究部員を中心に企画・運営され、年間計画に基づいた研修が実施される予定であったが、コロナ禍の中で感染予防のためほとんどの計画が中止となり、当初の計画を実施することができなかった。それでも、各支部ブロックで、オンライン研修等を実施するところもあり、今後の研修方法の在り方の方向性を示すこともできた。

幼稚園ナビを活用した受講申し込みも軌道に乗り、ほとんどの園でスムーズな申し込み、シールの発行等ができており研修の充実につながっている。

9 キャリアアップ研修会

キャリアアップ研修会を、2月2日に会場を鹿児島市国際交流センターで実施した。2022年度を目途に処遇改善加算Ⅱに係る研修受講要件であるマネジメント研修を目的とする研修として昨年度から実施している研

修である。

内容は、「園内研修の理解と実践」「より良い職場環境」「子どもの理解（事例研究）」の3つの講座を開設し、研修シールとしては、マネジメント研修5時間とした。新しい講師も加わり、たいへん充実した研修となった。参加者からは、「コロナ禍で様々な研修が中止される中、感染対策を十分された会場で内容もとても良い研修会を開催していただき有難かった。」という感想が多かった。次年度は、より多くの会員が受講できるよう2回開催予定である。

10 特別支援教育スキルアップ研修

オンラインによる「スキルアップ研修」を3月4日に独立行政法人国立特別支援教育総合研究所上席統括研究員の久保山茂樹先生の講義を通して実施した。初めてのオンラインによる研修会であるが、今後のオンライン等

の研修の方向性を探る研修会になると思う。

II 令和3年度に向けて

令和3年度は、延期された鹿児島県私立幼稚園協会創立70周年記念大会及び全日本私立幼稚園連合会九州地区会第37回教師研修大会鹿児島大会が開催予定である。現在、すでに準備を進めているが、新型コロナウイルス感染症の状況次第では、参加者の人数制限やオンラインによる基調講演・記念講演等の実施も検討していかねばならないと考えている。4月には実行委員会を開催し、準備をさらに進めていきたい。

また、次年度もコロナ禍の状況が続く場合は各種研修会及び部会等は、状況に応じて対面及びオンラインにより実施していく予定であるので、各園のご理解とご支援をお願いしたい。

政策振興委員会

『令和3年度に向けて』

政策振興委員長 島谷 精利

新型コロナウイルス感染症の流行により様々なところに影響が出るなか、すべての子どもに質の高い幼児教育を保障することや子どもたちの最善の利益の実現のため日々設置者・園長先生方は努力されていることと思います。

さて、新制度の下、施設型給付の園に対しては、処遇改善Ⅰや処遇改善Ⅱ等の様々な加算がなされています。私学助成の園に対しても処遇改善が行われていますが、制度の違いにより同規模の補助とはなっていません。私学助成の園でも施設型給付の園と同様に人材確保が重要な問題となっており教職員の処遇改善の実施は重要な課題となっていることは事実であります。

令和2年度も、私学助成と施設型給付という二つの立場で予算の要望や陳情を行いました。令和3年度も様々な形態の施設が混在する中での活動となります。要望先が県だけでなく市町にも行うことになっています。特に一昨年10月より幼児教育・保育の無償化が始まり、施設型給付の手続きや新型コロナウイルス感染防止の補助金の手続きが市町となり、これまで以上に各園との関係が深くなってきています。市町への要望等は、各地域で各園が交渉しなければならないことも多くなると思われます。

つきましては、各地域の行政機関との繋がりを深め良好な関係を築いていただきたいと思います。

今後も皆様のご意見を元に実情に即した活動と前年度同様以上の予算獲得に努力していきたいと思います。

1 これまでの政策委員会の経緯

(1) 公明党（国会議員，県議，市議，）

昨年に引き続き公明党との意見交換会が開かれ子ども・子育て新制度等についての意見交換を行いました。

(2) 自民党友好団体意見交換会（国会議員，県

議，鹿児島市議）

子ども・子育て新制度について、私学助成と施設型給付について等の意見交換を行いました。

(3) 自民党県議団私学振興等教育問題調査会幼稚園協会意見交換会

調査会に説明を行い新制度について理解を深めて頂きました。

私学助成園に対する処遇改善が実施されましたので、補助の充実と利用しやすい仕組みとなりますよう要望しました。

人材確保のための給付型の奨学金の利用要件の緩和等を要望しました。

幼児教育の質の向上のために幼児教育センターの設置を要望しました。

(4) 県知事への予算要望書提出

例年私立幼稚園の「経常費補助金」への財源措置並びに現在予算化されている項目の補助金について、可能な限りの引き上げと新制度下での変化に対応する予算措置等をお願いしました。

幼児教育の質の向上のために幼児教育センターの設置を要望しました。

退職金社団への補助金の増額を要望しました。

2 今後の課題

平成27年度からの子ども・子育て新制度のもと、施設型給付園には処遇改善等の各種加算が始まり、平成29年度から私学助成の園に対しても処遇改善が行われました。しかし、制度の違いにより、施設型給付の園に比べますと私学助成の園の方が、改善できる額や改善に対する負担が大きくなっています。

教職員の処遇改善につきましては、制度上、施設型給付園と私学助成園の処遇改善費用が同

額となることは難しいと思いますが、可能な限り近づけるように要望していきたいと思います。

令和3年度も引き続き、県を通じて、各市町村の担当者に、公私幼保並びに地域間の格差がないように指導して頂けるように努めたいと思います。

幼児教育への公費負担が増加する中で幼児教育の質の向上が強く求められています。幼児教育の質の向上のためにも、鹿児島県にも幼児教育センターの設置が急務と言えます。幼児教育センターの設置のための委員会の創設を要望するなどして、幼児教育センターの早期設置に向けて努力していきたいと思います。

令和元年度10月から幼児教育・保育の無償化が始まり、事務作業量の増加や預かり保育児の増加による保育の質を保障することの難しさ、幼児教育時間に係る準備時間の確保の難し

さなど様々な問題が起こっています。これらの事象について引き続き情報を収集し対処していきたいと思います。

(一社)鹿児島県私立幼稚園退職金基金社団への定額補助金が7000万円から3500万円に減額されたことに対して退職金基金社団が継続的に安定した運営ができるように補助金の復活若しくは増額を要望していきます。

公私幼保並びに地域間の格差が無くなる様に各支部ブロックにおいて近隣の幼稚園や認定こども園・保育所などと連携し情報を共有して、各担当市町村に対し要望していかなければならないと考えられますので、今後も、支部・ブロック・各園が市町村の担当課との良好な関係を築くことが重要となりますので、そのような関係を結べるよう努力しなければならないと思います。

経営研究委員会

活動報告

経営研究委員長 武 祥三

令和2年度から始まる委員会活動、2年ワンチーム1年目であった今年度です。この2年間は、経営研究委員プラス経営研究部員11名で活動を行うこととし、新たな取り組みも計画していましたが、新型コロナウイルスの影響で、思うような活動の展開はできずに終わるところです。

今年度計画した主な活動は、以下の通りです。

- ① 令和元年度の財務状況調査及び分析
- ② アミュ広場での合同就職説明会開催(中止)
- ③ 学生・幼稚園教諭及び保育教諭希望者向けDVD制作(中止)
- ④ 県設置者・園長研究協議会(中止)
- ⑤ 第36回全日本幼稚園連合会九州地区会 設置者・園長研修大会 佐賀大会の開催ならびに九州地区次世代交流会開催(中止)
- ⑥ 全国(福島県)設置者・園長研修大会への参加(中止)
- ⑦ 九州地区合同就職説明会(福岡市)への参加(不参加)
- ⑧ 私立幼稚園4団体教育交流会(岐阜)(中止)
- ⑨ プロジェクトKの活動支援(休止)
- ⑩ オンライン合同就職説明会(急遽開催)

令和2年度の経営研究委員会及び経営研究部会の活動ですが、前年度は、6月に開催の「九州地区会設置者園長研修大会(鹿児島大会)」もあり、活動が大変盛り上がっていた経営委員会・部会の活動であったため、上記をご覧いただいております。上記の通り大変寂しい活動内容となってしまいました。

今年度は、これまで抱き合わせて実施してきた「教員採用候補者試験」・「合同就職説明会」を、「教員採用候補者試験」を取りやめ、「合同就職説

明会」を鹿児島中央駅アミュ広場にて単独で行う計画でしたが、残念ながら開催することは叶いませんでした。しかしながら開催に向けての準備は整いつつある状況での中止でしたので、令和3年度はどうか実現開催できたらと願っているところです。

一方で、このような状況下だからこそ取り組めたのが「オンライン合同就職説明会」です。急なお知らせと急な準備で、うまく開催できたかと言われると課題山積だった気がしていますが、県内の若手の園長先生方が積極的に提案、関わってくださり、委員会・部会活動に留まらない裾野の広さを実感できました。ご参加ご協力いただいた先生方、ありがとうございました。

このように新型コロナウイルスの影響で、これまでの当たり前が当たり前ができない、普段の常識が通用しない1年を過ごし、もどかしさと共に様々な気づきや変化があったのも令和2年度です。

来年以降に向けては、対面の活動を主体としながら、効率性を意識したオンラインの積極的な活用法、ICT化への研究・提案にも取り組んで、加盟園の皆さまにより良い経営環境をもたらせるよう強く意識して活動して参りたいと思います。

この一年、満足できるものではございませんでしたが、経営研究委員会・部会の活動に、会員の皆さまには、多大なるご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。来年度1年間の取り組みにつきまして、今後とも積極的な協力をお願いし、一歩ずつ前進のある経営研究委員会・部会であるように支えていただきたいと思います。ありがとうございました。

鹿児島県知事表彰 鹿児島県私立学校教育功労者表彰



富永 宏
鹿児島市
学校法人 伊敷町学園
認定こども園
伊敷幼稚園
副理事長

平成13年4月に伊敷幼稚園第5代園長として就任。
就任当時110人前後で推移していた園児数であったが、子どもの豊かな「遊び」をふんだんに取り入れた活動を重視した教育の充実を中心に、保護者や地域との一層の連携、2歳児教室、「園長の子育てトーク」の開設、幼保連携型認定こども園への速やかな移行等を進め、園児数の増加を図られました。
また支部の研修会や大学で行われる教員免許状更新講習の講師を務めた実績もあり、地域社会における幼児教育の発展に貢献されました。
鹿児島県私立幼稚園協会理事6年、副会長11年、鹿児島市私立幼稚園協会理事6年、副会長2年、会長11年を歴任され、常に先頭に立って県及び市の関係部局へ積極的に働きかけ、団体活動に大きく尽力されています。



濱田 秀信
鹿児島市
学校法人 浜田学園
幼保連携型認定こども園
若葉幼稚園
理事長

昭和55年に副園長、平成11年からは園長に就任し、平成17年度からは理事長も兼任。
「こどもたちの『たくましく育つ力』を育てる」を教育スローガンに掲げ、「たくましく育つ力」を育てる遊びを大切にする「遊育」、どんな友達とも、また自然とも共に生きる心を育てる「共育」、地域社会の中で障がい児を育てる「特別支援教育」の三育に取り組み、卒園児総数4,142名（令和元年度末現在）を育ててこられました。
また鹿児島県私立幼稚園協会理事6年、監事12年、鹿児島市私立幼稚園協会理事4年、監事18年、鹿児島県私立幼稚園退職金基金社団監事3年を歴任され、現在も幼児教育の発展と団体の健全な運営に尽力されています。

鹿 児 島 市 支 部

鹿児島市支部では、総務・政策・経営研究・教育研究・広報の5常置委員会を設け、それぞれの委員会が年間計画を立て実践したが、新型コロナウイルス感染防止の関係で、思うような活動ができなかった。

1 重点課題

- (1) 各補助金の増額要望と「新制度移行希望園」についての合議
- (2) 幼稚園教育要領や幼保連携型認定こども園の趣旨を生かした保育研究
・「資質・能力」「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」の研究
- (3) 教員の資質向上を目指す各種研修会への参加促進
・各ブロックの研修活動の充実。公私立幼稚園保育研究会への参加
- (4) 自己評価及び学校関係者評価の実施と公表の充実
- (5) 幼稚園・認定こども園の学びを社会に認知してもらうための企画充実
※「リビングかごしま新聞」との連携（広告の在り方）
- (6) 円滑な接続を目指した幼保小連携の充実。小学校長会との連携・充実
- (7) 個々に応じた発達支援の在り方と個別の指導計画・支援計画の作成
- (8) 幼児の健やかな育ちのために、保健・衛生・食育の充実
- (9) 安心・安全で楽しい幼稚園の環境づくりへの取組み強化

2 総務委員会

- (1) 「ホームページだより」の発行
- (2) 幼稚園免許の進捗に向けての情報
- (3) 「鹿児島市私立幼稚園・認定こども園ガイドブック」の作成

3 政策委員会

- (1) 市当局への助成等の要望とこども未来局との連携
- (2) 加盟園全園の一致協力した活動の取組みとPTA・振興議員との連携

4 経営研究委員会

- (1) 理事長・園長研修会にて、働き方改革に関する研修を企画したが、6月は中止し、1月実施予定だった研修会を2月に「動画配信」で実施した。

- ・講師 松本伸哉氏（社会保険労務士）
「同一労働同一賃金の基礎編」
- ・講師 岩瀬学氏（経営コンサルタント）
「同一労働同一賃金の実践編」

5 主幹・主任・中核リーダー等研修会

- 12月23日（水）
- ・講師 広瀬健一郎氏（純心女子大学准教授）
「カリキュラムマネージメント」
 - ・講師 外岡資朗氏（県子ども療育センター所長）
「発達障害の理解と支援」

6 教育研究委員会

- ①教師の資質向上と指導力向上のための研修

の充実 ②研修会の参加促進

③主幹・主任教諭の資質向上（主任等研修会の充実）

7 広報委員会

- ①「かごしま市私立幼稚園・認定こども園だより」の発行
- ②新入園児募集活動の広報

8 今年度新型コロナウイルス感染防止のため中止した企画

- (1) ①幼稚園協会総会 ②理事長・園長研修会 ③主任等研修会
- (2) 「絵本の読み聞かせ活動」発表会
- (3) 「かごしま市私立幼稚園・認定こども園フェスタ」

（支部長 富永 宏）

南 薩 支 部

南薩支部は、枕崎市2園、指宿市6園、南さつま市2園、南九州市2園の計12園が加盟しています。

令和2年度南薩支部の活動としては、新型コロナウイルス感染症の影響で研修会などの行事ができておりません。

致し方ないこととはいえ、これまで私立幼稚園が研修を大切にしてきたことを思えば、南薩支部の園長・主任・教職員の皆様に、この場をお借りして心からお詫び申し上げる次第であります。

コロナ禍が落ち着きましたら、園長会・主任会・研修会も開催して、教育のこと、園運営のことなど様々な課題に対処してまいりたいと存じます。

今後も、南薩12園の連携を深めながら支部活動を盛り上げてまいります。

支 部



（支部長 下川床 泉）

西 薩 支 部

西薩支部は、北は出水郡長島町から南の日置市までと南北に細長い支部で18園が加盟しています。

昨年度は、鹿児島県私立幼稚園教職員研修大会西薩大会が行われ、支部の活動として年4回行われる教育研究委員会で、夏の西薩支部教職員研修大会の企画と準備をし、支部における課題などを協議しました。8月に夏期教職員研修会を、鹿児島純心女子大学にて行うことができました。

また、支部PTAの活動として、西薩ママさんバレーボール大会を薩摩川内市の『サンアリーナせんだい』にて開催し、楽しく親睦をはかることができました。

しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症の

流行により例年の活動をほとんど行うことができませんでした。

西薩支部としての対応はほとんどできておらず、支部内の各園では新しい日常を求められる中で、子どもたちに最良の保育を提供するべく尽力されていたことと思います。

今回の経験を活かして、リモート会議やリモートでの研修会を実施するなどして支部内の意思の疎通や連携を図っていききたいと思います。

リモートの活用は、今まで縦に長い支部の特性で集まりにくいということが有りましたが、この事が解消されてより親密に意思の疎通が図れることと思います。

令和3年度は、良い活動ができますように努力します。

(支部長 島谷 精利)

始良・伊佐支部

コロナ禍における令和2年度は事業計画を見直しながらも、支部においてZoomを導入し、リモートにて研修会や支部主任会等を実施することが出来た。今後も状況に応じてZoomを活用した園長会・主任会・各種研修会等を実施していく予定です。

だより



① 資質向上研修会 I・資質向上研修会IIの実施

教職員の資質向上と指導力向上の為資質向上研修会を研修ハンドブック俯瞰図に沿って実施。

・第1回資質向上研修会(担当:鹿児島第一幼稚園)

・第2回資質向上研修会(担当:国分愛の園幼稚園)

② 地区教職員研修会・主任研修会・設置者園長会の実施

地区教職員研修会においては、第一幼児教育短期大学の協力のもと今年度初めて導入したZoomを活用した初のリモート研修会を実施。また主任会においてもリモートを通じて各園主任との意見交換を実施。

③ オンライン合同就職説明会参加

9月22日県私立幼稚園協会主催のオンライン合同就職説明会に希望園が参加。初の試みの中、操作から本番実施まで協会の援助のもと実施。今後につながる可能性と課題。コロナ禍における支部活動の再考のきっかけとなる。

④ 養成校就職担当訪問

地域にある第一幼児教育短期大学の就職担当へ訪問。近年の学生就職状況を確認。県外就職や小規模・企業主導型の園へ希望する学生もいる中、人材確保については、支部においても今後の課題が残る。

⑤ 新型コロナウイルス感染症への対応

支部内各園にアンケートを実施。コロナ対策、行事等の実施方法等を取りまとめ、今後の園運営の参考とすることが出来た。

⑥ 幼稚園ナビの登録推進

全国版総合情報ナビサイト「幼稚園ナビ」を活用した研修会の登録、受付、研修スタンプの発行等、実践の中で活用出来た。

(支部長 若松 忠洋)

大隅支部

大隅支部では、令和2年3月17日の支部総会で今年度の活動をはじめました。総会は何とか顔を合わせて行えたものの、その後の状況の変化で8月までは活動の自粛を余儀なくされました。5月、7月の主任研修会、また6月に予定していた全教職員対象の「教師研修大会」も中止にせざるを得ませんでした。県大会も中止になる中、今年度地区でいただいたテーマについて、担当のいずみ幼稚園さん(門倉まなみ先生)が研修レポートを作成して下さいましたので、資料データを各園に送り、研究が途絶えることのないよう各園の園内研修で活用していただいた次第です。仲間と顔を合わせることでできない中で、9月以降何とか活動を再開したいという思いから、研究研修部員の三浦先生(大崎幼)、門脇先生(大根占幼)とZOOMでの会議を重ね、必要な対策を講じつつ9月以降の主任研修会を再開。また「教師研修大会」は人数を制限して、10月31日午前中での研修会を開催しました。地区では初めて幼稚園ナビを活用し、申し込みからスタンプ発行までの流れを体験、事務作業の効率化を実感したところです。今後は2022年度から始まる処遇改善加算Ⅱに係る研修受講要件のことも鑑み、地区においてもマネジメント研修等取り入れていくべく、各園のご協力もいただきつつ検討していきたくと考えております。

(支部長 吉井 健)

熊毛・大島支部

熊毛・大島支部は種子島6園、屋久島3園、徳之島2園の11園が加盟しています。離島のため、通常でも全園が集まることは難しいのですが、今年度はコロナ禍で、ますます会しての集まりは厳しくなりました。

6月と1月に予定していた年2回の研修も、6月は園長、主幹の先生方みの研修として実施し、県教研大会の研究発表と意見交換、今後の予定の確認となりました。

12月の研修は、どうにかして教職員の先生方の研修をと初めてのオンライン研修に取り組みました。各園初めての事もあり多少のトラブルもありましたが、終始発表から意見交換等活発に行えました。今回はこれからの運営や保育を考える良いきっかけとなるテーマでしたのでどの園も工夫のある取り組みがなされていました。離島というネックを抱えながらですが、目の前の子どもたちに向き合い、高め合いながら活動に取り組んでいるところです。研修の段取り等全園協力的で心から感謝しています。

(支部長 岩川 臣之介)

令和3年度の主な行事（予定） = 2021 =

行 事 名	期 日	場 所	行 事 名	期 日	場 所
第1回新規採用教員研修会	4/2 (金)	マリパレス かごしま	合同就職説明会	未 定	A M U 広 場
県私幼協会・県PTA連合会 監事監査	4/9 (金)	協会事務局	第22回幼児教育・保育実践講座 ※免許状更新講習（1日目）	7/20 (火) 7/21 (水)	マリパレス かごしま
(一社)県私幼協会理事会	4/16 (金)	未 定	第37回九州地区教師研修大会鹿児島大会 ※免許状更新講習（2日目分科会） 第60回鹿児島県私立幼稚園協会 教職員研修大会鹿児島大会	8/5 (木) 8/6 (金)	川商ホール他
(一社)県私幼退職金基金社団 監事監査	4/26 (月)	協会事務局			
(一社)県私幼退職金基金社団理事会	4/26 (月)	協会事務局	第12回幼児教育実践学会	8/20 (金)	オンライン
県PTA連合会指導者研修会	5/11 (火)	サンロイヤル ホ テ ル	第36回 九州地区PTA研修会	9/15 (水)	熊 本 県
(一社)県私幼協会総会 (一社)県私幼退職金基金社団総会	5/14 (金)	マリパレス かごしま	設置者・園長研究協議会（県私幼） 県私幼協会70周年記念事業	9/28 (火) 9/29 (水)	城山ホテル鹿児島
県PTA連合会総会	5/21 (金)	黎明館講堂	全日私幼設置者・園長 全国研修会	10月/未定	福 島 県
全国私立幼稚園退職金団体協議 会総会・研修会	6/17 (木) 6/18 (金)	佐 賀 県	令和3年度 保育教諭等研修会	11/ 9 (火) 11/10 (水)	マリパレス かごしま
九州地区私立幼稚園 退職金団体代表者会議	6/18 (金)	佐 賀 県	九州地区免許状更新講習講座	12月/未定 12月/未定	福 岡 県
県主任等研修会	6/22 (火)	マリパレス かごしま	第2回新規採用教員研修会	12/21 (火)	マリパレス かごしま
第37回九州地区設置者・園長研修大会 (大分大会)	6/24 (木) 6/25 (金)	大 分 県	第25回 幼稚園等教育改善研究会	1/21 (金)	マリパレス かごしま

2021年度（令和3年度）全日本私立幼稚園連合会九州地区区 第37回教師研修大会鹿児島大会 実施要項（案）

大会テーマ 『新しい時代を伸びやかに生きる』
～社会に開かれた質の高い幼児教育を～

【1日目】令和3年8月5日（木）

11:00		12:00		12:30		13:20		13:40		15:10		15:25		16:25		16:45		17:05		18:05		18:30		20:30	
5日 (木)	大会運営 委員会 受 付	オープ ニング	開会式	休憩	基調講演 (90分)	休憩	記念講演 (60分)	引継式	移動	分科会担当者 打合せ	移動	レセプション													
会場	鹿児島市 川商ホール（鹿児島市民文化ホール）										鹿児島市 鹿児島サンロイヤルホテル														

【2日目】令和3年8月6日（金）

〈第1分科会～第12分科会〉											
8:30		9:00		12:00							
6日 (金)	受 付	分科会		閉会解散							
〈第13分科会（設置者・園長向け分科会）〉											
8:30		9:30		11:00							
6日 (金)	受 付	設置者向け分科会		閉会解散							
〈教員免許状更新講習〉											
8:30		8:50		9:00		12:00		13:00		16:00	
6日 (金)	受 付	オリエンテーション	更新講習1		昼食・休憩散		更新講習2				



今年度1年を振り返ると、新型コロナウイルスによって様々な生活環境が変わっていった年となりました。コロナ感染者の増大にともない、緊急事態宣言、移動制限、コロナ自粛等、新しい生活様式を取り入れながらの生活へと様変わりしてきました。そんな中ワクチン接種も始まりました。1日でも早くマスクをしない生活にもどれることを期待したいと思います。

さてそんな中、各園の園運営におかれましても様々なご苦労をなされた1年だったのではないのでしょうか。コロナ対策においては、園児や保護者、教職員の安全を第一に園行事にも工夫をこらしながらの1年だったと思います。しかしながら、これを園運営、園行事等の見直しをする良い機会にさせていただき、どんな苦境も協会加盟園みんなで情報を共有しながら乗り越えて、来年度も様々な課題と向き合って力を合わせ取り組んでいきましょう。

調査広報委員長 若松忠洋